

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 27 年 8 月 27 日 (2015.8.27)

【公開番号】特開 2015-128081 (P2015-128081A)  
 【公開日】平成 27 年 7 月 9 日 (2015.7.9)  
 【年通号数】公開・登録公報 2015-044  
 【出願番号】特願 2015-80778 (P2015-80778)  
 【国際特許分類】

H 0 5 B 6/12 (2006.01)

A 4 7 J 47/16 (2006.01)

【F I】

H 0 5 B 6/12 3 0 7

A 4 7 J 47/16 D

【手続補正書】  
 【提出日】平成 27 年 7 月 8 日 (2015.7.8)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガラス繊維からなるシート状の基材と、この基材の両面にそれぞれ形成された第 1 被覆層および第 2 被覆層とを有し、複合ヤング率が  $22 \text{ N/mm}^2$  以上  $100 \text{ N/mm}^2$  以下であることを特徴とする電磁調理器用保護マット。

【請求項 2】

前記第 1 被覆層は、平均摩擦係数が  $0.45$  以上であることを特徴とする請求項 1 に記載の電磁調理器用保護マット。

【請求項 3】

前記第 2 被覆層は、表面凹凸が  $0.8 \mu\text{m}$  以上  $4 \mu\text{m}$  以下であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の電磁調理器用保護マット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0009  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0009】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたもので、ガラス繊維からなるシート状の基材と、この基材の両面にそれぞれ形成された第 1 被覆層および第 2 被覆層とを有し、複合ヤング率が  $22 \text{ N/mm}^2$  以上  $100 \text{ N/mm}^2$  以下である。

この場合、前記第 1 被覆層は、平均摩擦係数が  $0.45$  以上であることが好ましい。

また、前記第 2 被覆層は、表面凹凸が  $0.8 \mu\text{m}$  以上  $4 \mu\text{m}$  以下であることが好ましい

。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0011  
 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0011】

この電磁調理器用保護マットをトッププレート上に敷設することにより、トッププレートに汚れが付着するのを防止できる。なお、マットのいずれかの面に設けられた第1被覆層に適当な凹凸形状が形成されていると、第1被覆層を下面としてトッププレート上に敷設することにより、電磁調理器のトッププレートと保護マットの第1被覆層との間に適度に大きな摩擦抵抗が得られ、調理時のマットのずれが防止され、快適な作業が可能となる。

## 【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0012】

この電磁調理器用保護マットは複合ヤング率が $22\text{ N/mm}^2$ 以上 $100\text{ N/mm}^2$ 以下である。この場合、マットの表面が適度な硬さであり、マット自体が適度なクッション性を有するので、調理時の接触音や衝撃音が緩和され、快適な作業が可能となる。なお、ここで「複合ヤング率」とは、ELIONIX株式会社製の超微小押し込み硬さ試験機（ENT-1100a）により測定される結果を元に算出される。

## 【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0013】

この電磁調理器用保護マットにおいて、第1被覆層と第2被覆層とは、同等の表面凹凸、平均摩擦係数および複合ヤング率を有することが好ましい。この場合、第1被覆層と第2被覆層のいずれを表にしても同様に使用することができるので、片面だけが摩耗しにくく、長期間にわたって快適な作業が可能となる。